新型コロナウイルス感染症

○ レジストリを活用した研究
○ 後遺症に関する疫学調査

東京 *i* CDC 専門家ボード
大曲 貴夫

東京都

COVIREGI-JP
COVID-19 REGISTRY JAPAN

COVID-19 に関するレジストリ研究の概要

目　　的	本邦におけるCOVID-19患者の臨床像及び疫学的動向を明らかにする
対　　象	COVID-19と診断され、医療機関において入院管理されている症例
期　　間	2020年１月～　現在
解　析・検討内容	・COVID-19の臨床像、経過、予後 ・重症化危険因子の探索 ・薬剤投与症例の経過と安全性
寄　　与	・将来の予防法・治療法の開発などの際に活用可能な基礎データとなる。

厚生労働省科学研究費「COVID-19に関するレジストリ研究」：代表者　大曲貴夫

COVIREGI-JP COVID-19 REGISTRY JAPAN （https://covid-registry.ncgm.go.jp） ログイン

COVID-19 レジストリ研究 Webサイト
2020年4月開設
研究について、一般・参加施設へ情報提供
（研究概要、研究体制、情報公開文書、
研究成果、Ｑ＆Ａなど）

COVIREGI-JP 東京都

COVID-19 レジストリ研究 本データの注意点

・12月28日までに登録されたデータを利用し、**登録開始日～11月30日**までに発症した症例を対象とした。**全国15,978例**（男9,492、女6,477）、**東京都3,646例**（男2,226、女1,416）であった。

・**重症度**は**東京都と同じ定義**を用いた。

参考）
軽症　：中等症・重症以外
中等症：入院中に酸素が必要であった症例
重症　：入院中に挿管・ECMO（体外式膜型人工肺）が必要であった症例

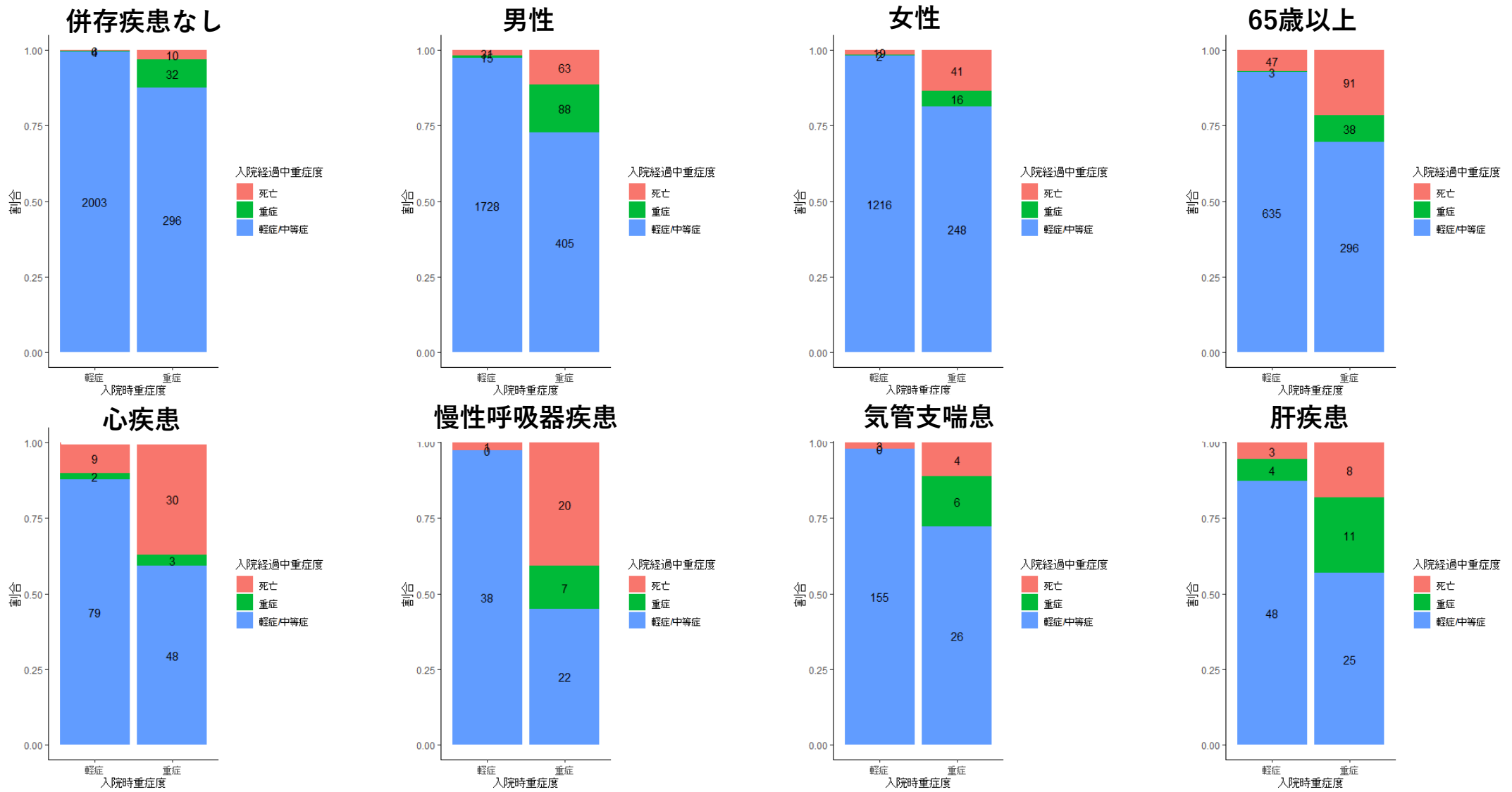
・退院が完了した症例からデータの登録を行うため、直近の症例の中でも**入院が長期化している症例は含まれていない。**

・COVIREGI-JP東京都データは、東京都保有データに比して、**年齢が高く、男性が多く、致死率が高い**データである。

・欠損値など対象症例のクエリ対応中項目は、不明として含めている。

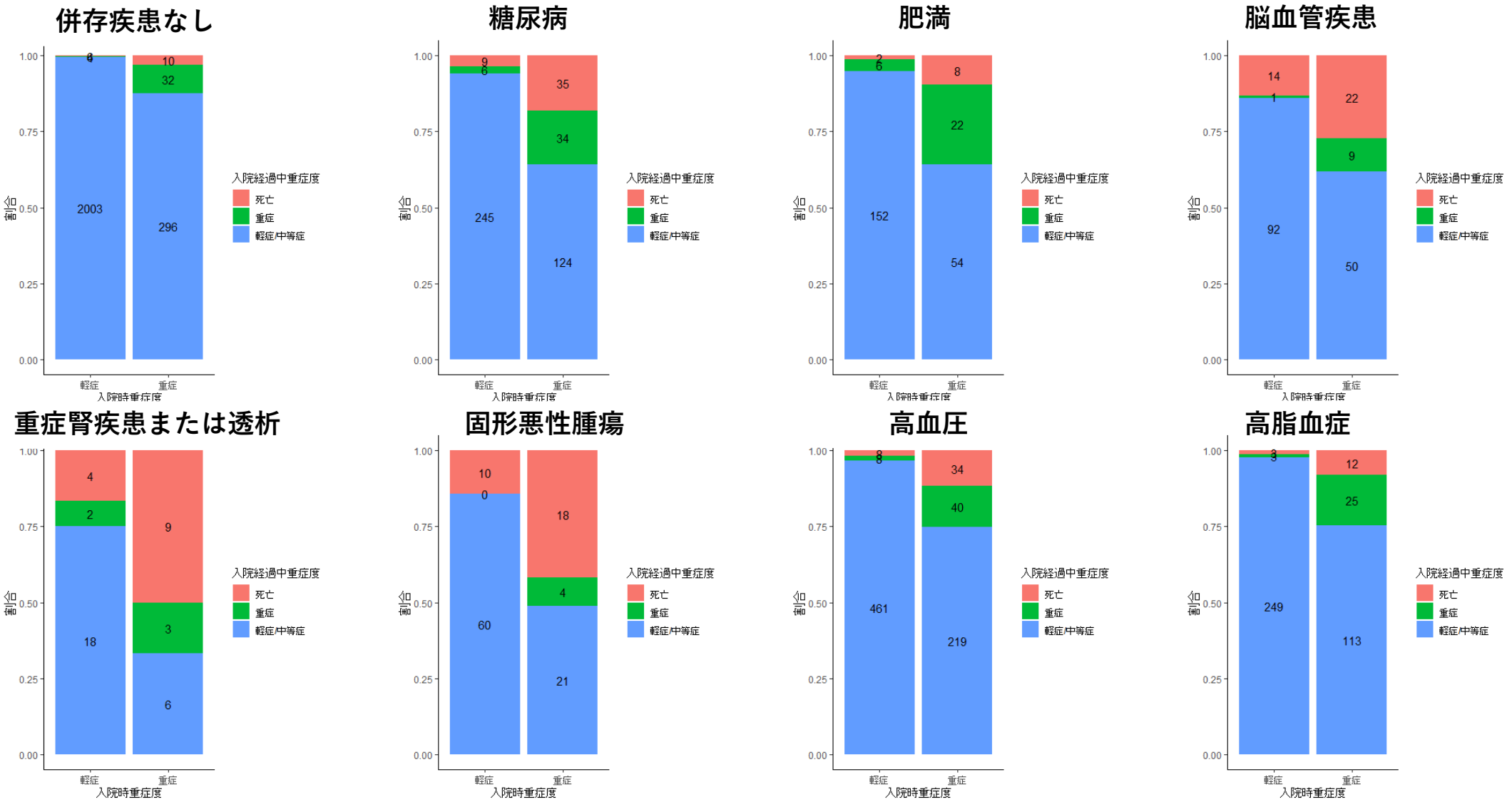
背景因子ごとの重症化/死亡率①（全年齢東京）

・併存疾患なしと比べて、高齢（65歳以上）・心疾患・慢性呼吸器疾患・糖尿病は、重症化リスク・死亡リスクが高い傾向にある。



背景因子ごとの重症化/死亡率②（全年齢東京）

・脳血管疾患、固形悪性腫瘍、心疾患などは入院時に軽症でも死亡リスクは高い傾向にある。



12月28日時点での入院時重症例の累計のうち人工呼吸器管理をした患者の数　（全国）

・20代、30代でも、入院時酸素が必要な症例が約８％存在し、
一部は人工呼吸器が必要な患者もいた。

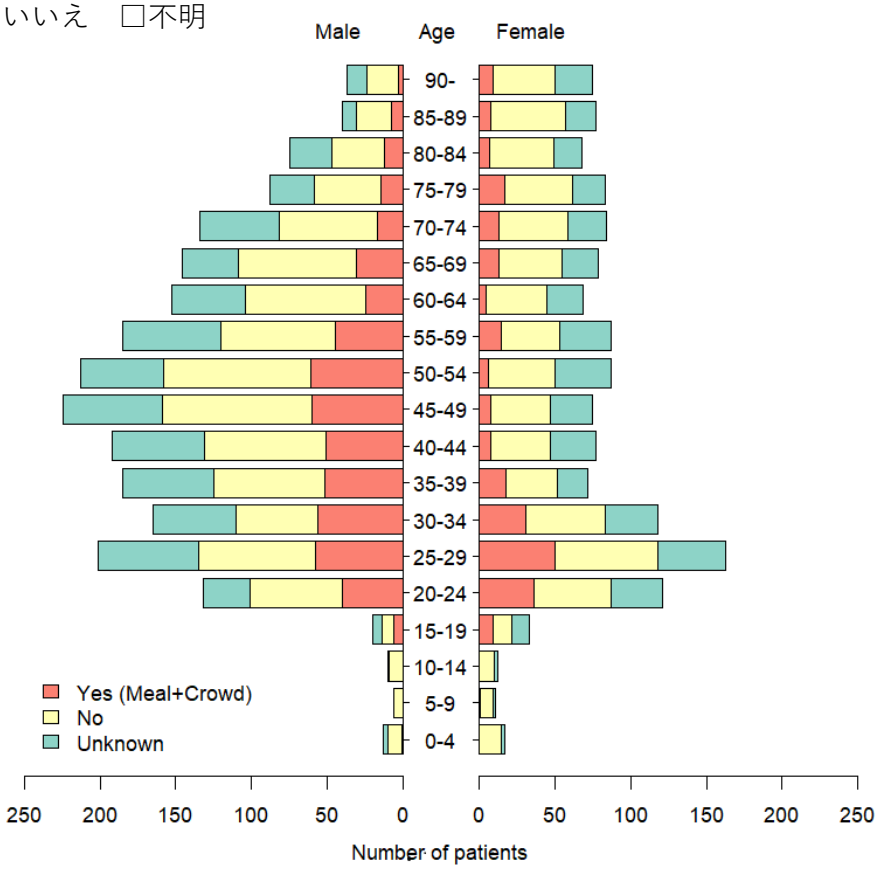
年齢	全患者	入院時重症例	入院時重症例のうち人工呼吸器管理をした患者数
0歳代	319	116	0
10代	532	33	0
20代	2667	154	8
30代	2055	213	18
40代	2422	377	58
50代	2865	740	148
60代	2372	814	195
70代	2357	983	230
80代	1617	751	104
90代	507	230	5
100超	19	9	0

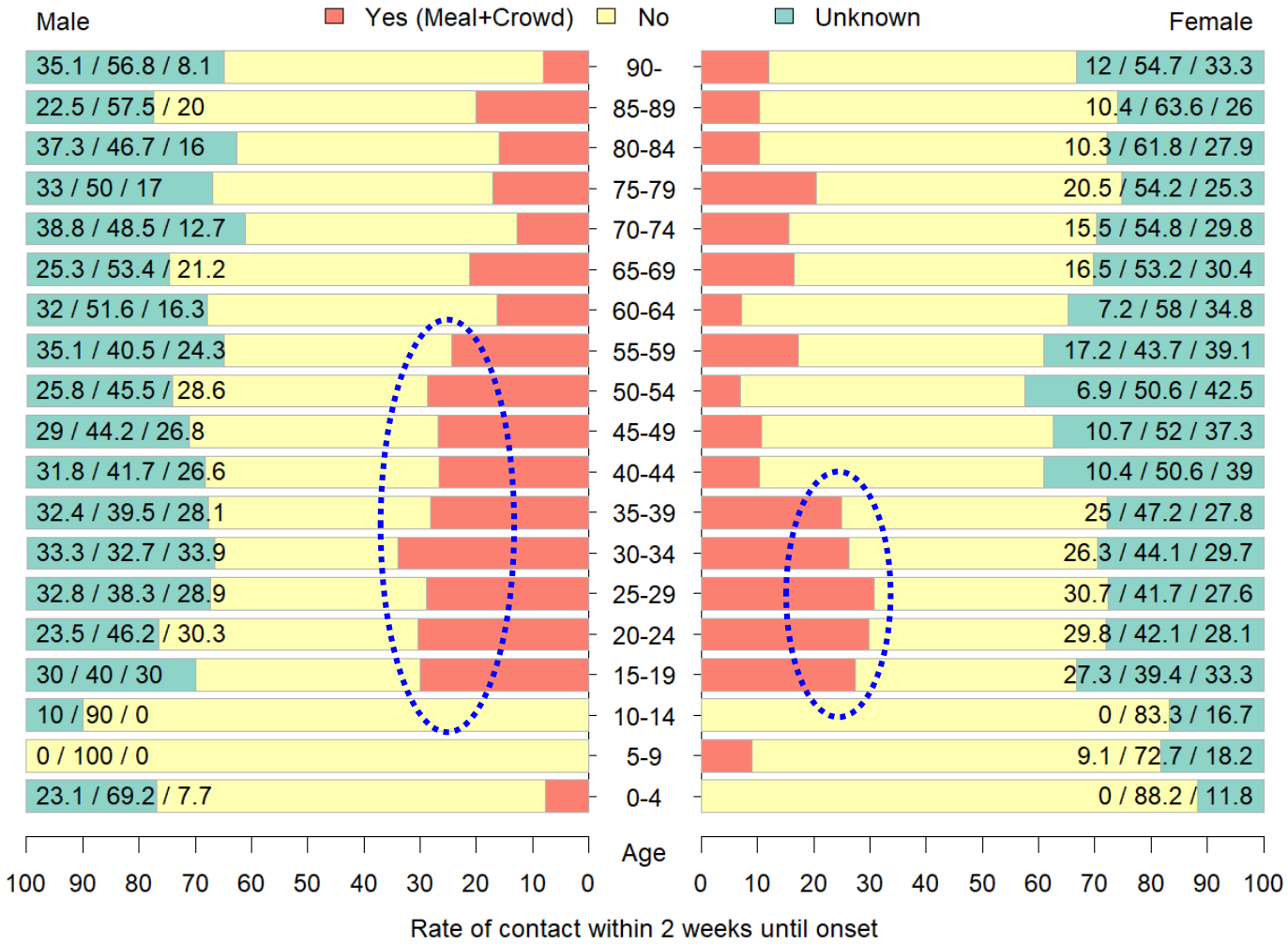
飲食および３密の場に滞在した割合（東京）

・15歳～39歳の患者では男性女性ともに、飲食および３密の場に滞在した割合が高かった。
・特に、15歳～69歳の男性は、飲食および３密の場に滞在する割合が高かった。

発症前14日間に以下のことがありましたか？

・同居家族以外での集団での飲食（3人以上）：□はい　□いいえ　□不明
・三密と考えられる空間への滞在（スポーツジム、ライブハウス、カラオケ、パチンコ、雀荘、ビュッフェ、屋内パーティ、会議、ナイトクラブ/バーなど）：□はい　□いいえ　□不明





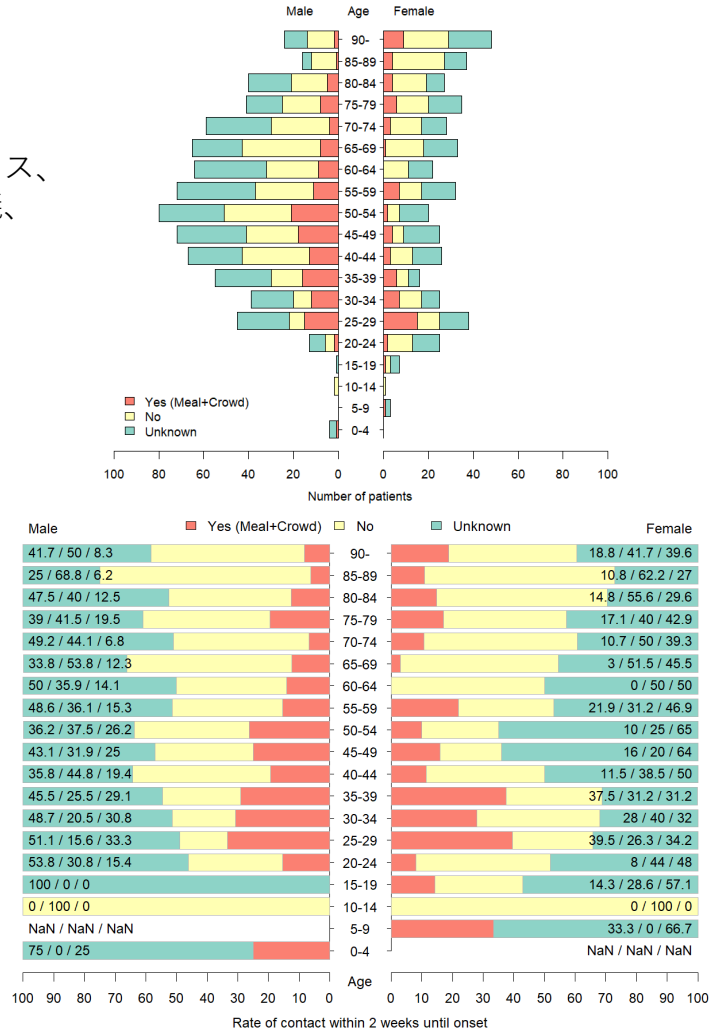
飲食および３密の場に滞在した割合（東京）

・第１波に比べ、第2波では全体的に飲食および３密の場に滞在した割合が高かった。
・若年者および男性患者は、各波通じて飲食および３密の場に滞在した割合が高かった。

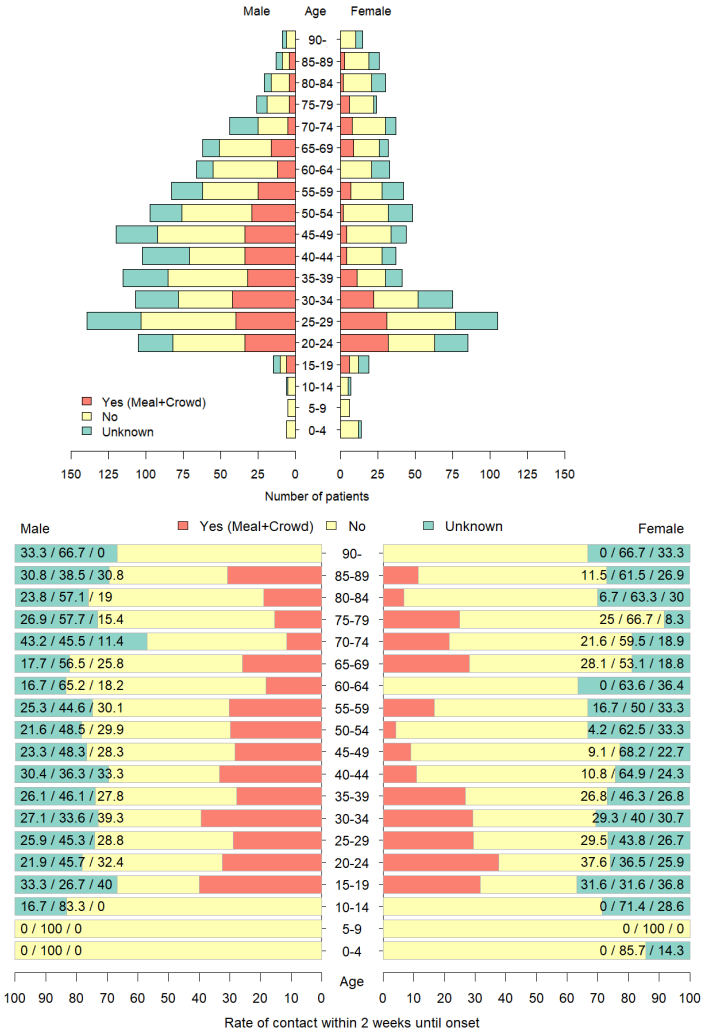
発症前14日間に以下のことがありましたか？

・同居家族以外での集団での飲食（3人以上）
　：□はい　□いいえ　□不明
・三密と考えられる空間への滞在（スポーツジム、ライブハウス、カラオケ、パチンコ、雀荘、ビュッフェ、屋内パーティ、会議、ナイトクラブ/バーなど）
　：□はい　□いいえ　□不明

第１波（～5/31発症）



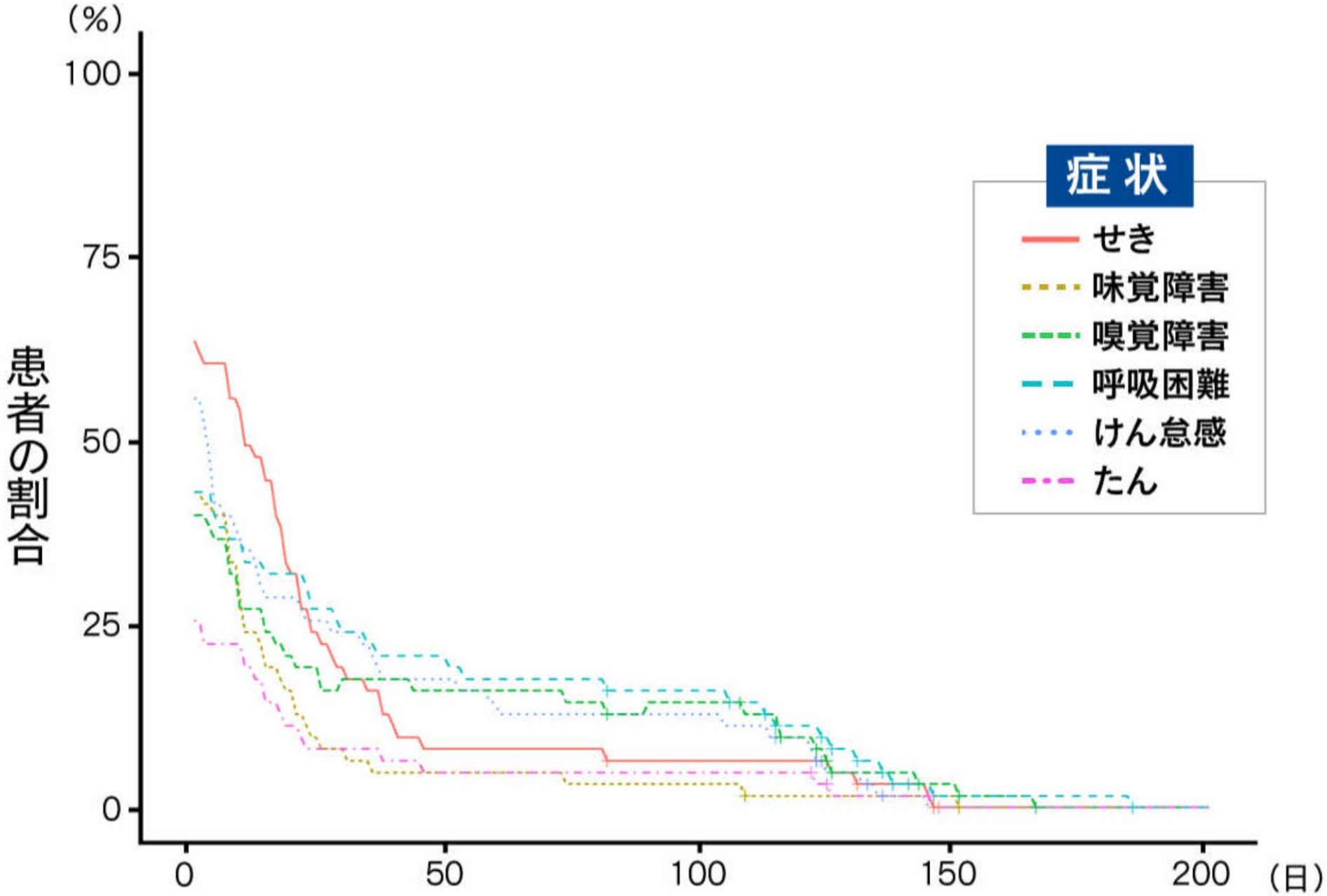
第２波（6/1～9/30発症）



国立国際医療研究センターでのコロナ後遺症に関する疫学調査

- 2020年2月～6月に当院を退院した78名の新型コロナウイルス感染症回復者を対象として,コロナ後遺症に関して電話での聞き取り調査を行った.
- 63名より回答を得た.
- 発症後, 2か月で48%, 4か月たっても27%の患者で何らかの後遺症を認めた.
- 特に, 呼吸困難, 倦怠感, 嗅覚障害は, 4か月たっても約10%の患者で認めた.
- 脱毛は24%の患者にみられ, そのうちの64%の患者は調査時に脱毛が改善していなかった.

COVID-19発症からの日数と急性期症状を有する患者の割合



年齢別のコロナ後遺症患者の割合

どの年代でも後遺症を認めた患者は存在（合計７６％）し、20歳代、30歳代でも後遺症を有する割合は高い。

年齢	調査対象となった患者数	後遺症を認めた患者数	後遺症を有する割合（%）
20歳未満	2	0	**0**
20歳代	12	9	**75**
30歳代	6	5	**83**
40歳代	15	10	**67**
50歳代	10	9	**90**
60歳代	8	7	**88**
70歳以上	10	8	**80**
合計	63	48	**76**

* 後遺症は, 14日間を超えて遷延する症状と定義した

コロナ後遺症における主な症状の年齢別頻度（発症14日時点）

せき、呼吸困難、倦怠感のほか、20歳代は、嗅覚障害、味覚障害の割合が高い。

	1位	2位	3位
20歳未満 (n=2)	-	-	-
20歳代 (n=12)	嗅覚障害 (50%)	味覚障害（47%）	たん（33%）
30歳代 (n=6)	せき（50%）	呼吸困難（50%）	倦怠感（50%）
40歳代 (n=15)	せき（33%）	倦怠感（27%）	呼吸困難（27%）
50歳代 (n=10)	せき（80%）	倦怠感（40%）	呼吸困難（40%）
60歳代 (n=8)	せき（50%）	嗅覚障害 25%)	呼吸困難（25%）
70歳以上 (n=10)	せき（60%）	倦怠感（60%）	呼吸困難（60%）

（下線部は同順位）

後遺症の原因と治療

- ウイルスによる過剰な炎症（サイトカインストーム）, 活動性のウイルスそのものによる障害, 不十分な抗体による免疫応答などが原因として挙げられているが, 原因は明確になっていない.

- 現段階では, 確立された治療法はない.

コロナ後遺症のまとめ

- 若年者でも一定数コロナ後遺症で苦しんでいる方がいる.
- コロナ後遺症は, 多様な症状が月単位で長引き, 回復者の生活の質を低下させ, 美容というデリケートな面でも問題がある.
- コロナウイルス感染症に罹患しないことが最大の後遺症予防である.
- こうした課題を踏まえ、更に調査を進めていく.